

御津連区の「市長を囲む懇談会」【概要】

日 時 令和7年7月8日（火）午後7時30分

場 所 御津文化会館 1階 研修室

参加者 連区長始め60名

市長、桑野副市長、廣瀬副市長、企画部長、財産管理監、市民部次長、
産業環境部長、建設部長、都市整備部長

御津連区 代表連区長 開会あいさつ

本日は、竹本市長始め、副市長、関係部長など、多くの市の幹部の皆さんが貴重なお時間を割いていただき、深く感謝申し上げます。

また、市議会議員及び町内会関係者の皆さんも大変お忙しい中、市長を囲む懇談会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

今年の3月8日に国道23号名豊道路が全線開通し、御津金野インターチェンジから国坂峠へと繋がる県道豊川蒲郡線バイパスも、関係者の努力のおかげで同日に供用開始されております。

現在、御津町におきましては、県や市の事業がたくさん進められております。

二級河川白川及び御津川の河川整備、御津1区（2期）の港湾緑地整備、御津山洞災害関連緊急砂防事業、JR愛知御津駅周辺まちづくり整備事業などです。

今回の市長を囲む懇談会では、次第のとおり、市長マニフェストの戦略1に掲載されている3つの質問を含め、5つの質問をしたいと思います。

質問事項については、事前に市と調整をしており、市担当部長からプロジェクターで説明を受けることになっておりますので、よろしくお願いいたします。

簡単ではありますが、私の開会のあいさつとさせていただきます。

（出席者の紹介）

市長あいさつ

皆さんこんばんは。

本日は、市長を囲む懇談会の開催、本当にありがとうございます。

平成16年の3月に、2年半の協議を経て1市4町の合併協議会が破綻をいたしました。これは、合併の是非に関する住民意識調査の結果、一宮町と御津町において合併反対の意思表示がなされたことによるものです。当時、合併協議会の幹事であった御津町の企画課長がいつも主張していたのは、御津為当線と松本入浜線を自由通路で結ぶことであり、これが御津町の悲願でございました。

JR愛知御津駅に関する事業については、人件費や資材費の高騰もあり、年々経費が上がってきております。そのような中で、令和6年の6月の議会の一般質問で、私

の考えを問われましたが、「何が何でもやり遂げます」といった答弁をさせていただきました。

不安視されております経費の増大に対しては、財政調整基金や公共施設整備基金、そういったものを活用し、後世に少しでも負担の残らない形で財政運営をしていきます。

本日も、J R 愛知御津駅橋上化の建設整備について話題に上がっていると思いますが、しっかりと進めてまいります。

結びにあたりまして、御津連区のますますのご繁栄と、本日ご出席の皆さまのご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、私からの冒頭のあいさつとさせていただきます。

どうかよろしくお願いいたします。

祝電披露

議 題

Q 1. J R 愛知御津駅橋上化の建設整備について

(西方町内会長)

御津町は、まちの南北が J R 東海道本線で分断されて、駅周辺で横断するには西側の交通量の多い御油踏切か東側の狭い梨野ガードしかなく、通学児童・生徒の交通安全が長い間危惧され続けて来ました。

令和 10 年度に橋上駅が完成すれば、通勤者や地域住民及び通学児童・生徒の利便性が向上し、安心して通学できるようになります。

そして、駅周辺の賑わいなど各種課題も解決しそうです。

また、南側の駅前ロータリーが完成すれば、御津 1 区や 2 区の工場従業員の送迎バスが、愛知御津駅を利用してくれる可能性がありますし、豊川為当 I C 地区工業団地開発も進められています。

近い将来、駅の利用客が増え、愛知御津駅へ停車する電車の本数が増えてほしいと期待しています。

本件については、全体計画、J R 東海との施行協定の締結内容、橋上駅完成後の南北駅前広場の緑地管理及び人がたくさん集まるようになるので防犯対策や夜間に照明を求めてやってくる若者たちのスケボー対策について質問したいと思います。

A 1.

都市整備部長（市街地整備課）

「J R 愛知御津駅橋上化の建設整備について」ご説明をさせていただきます。

はじめに、「(1) 事業概要、スケジュールについて」ご説明いたします。

当該事業は、J R 愛知御津駅の南北に駅前広場を設置し、自由通路で連絡する事業

でございます。

整備完了時のイメージ図としましては、①が北側から見たところ、②が南側から見たところ、③は自由通路構内のイメージ図となっております。

スケジュールとしましては、令和6年10月29日にＪＲ東海と「工事協定」を締結いたしました。これを受け、今年の9月頃から現場で工事が始まる予定となっております。なお、自由通路の供用開始は令和10年度を予定しており、南北の駅前広場の整備工事についてはその後、実施していく予定です。

次に「(2) 詳細設計等の進捗状況」の仮駅舎についてご説明いたします。

整備工事が始まるとまず、本体工事の際に支障となる物件の移転工事を実施し、続いて、仮駅舎を整備します。

仮駅舎の位置としましては、スライド赤い四角部分、現駅舎の西側に整備を予定しております。

スライド右側の仮駅舎拡大図をご覧ください。

改札へのアクセスは階段とスロープを配置し、供用開始は令和8年度の予定でございます。

次に、整備する自由通路についてご説明いたします。こちらは、自由通路の平面図となります。方角としましては、画面の下が北、上が南となっております。

自由通路の延長は約47mで、自由通路及び階段の有効幅員は3.5mでございます。エレベータは自由通路と改札内にそれぞれ2基ずつ設置する予定となっております。

また、図面の右側上段、自由通路部の南側に多機能付きのトイレを設置いたします。

次に「(3) 事業費について」の概算事業費についてご説明いたします。

表の上段の3件にお示ししております、自由通路及び橋上駅舎の整備に係る事業費としましては、約41億円を見込んでおります。

南北駅前広場の事業費につきましては、12億2,000万円、総事業費につきましては、約53億2,000万円を見込んでおります。

「(4) 工事協定書」の内容についてご説明いたします。こちらは、令和6年10月29日にＪＲ東海と締結したもので、この中から主なものを抜粋してご説明いたします。

工事協定書とは、自由通路新設及び橋上駅舎化工事を進めていくうえで必要な協定項目をまとめたものでございます。

ここでは、甲を豊川市、乙をＪＲ東海と読み替え、主な内容についてご説明いたします。

まず、「第2条、工事の施行」をご覧ください。豊川市施行となりますのは、周辺施設の支障移転や、工事現場までの進入路の確保等でございます。

ＪＲ東海施行となりますのは、自由通路及び橋上駅舎化の工事であり、電気設備の支障移転、仮駅舎の設置撤去及び既設駅舎の撤去などを一括して施工するものでございます。

次に「第3条、工事の費用」です。

ＪＲ東海施行の工事に要する費用は、自由通路及び橋上駅舎分の41億円から、設計に係る費用を除いた39億7,600万円と定めております。

次に「第４条の工事費の負担及び支払い等」といたしまして、工事費は、豊川市が３９億５，６９０万円、ＪＲ東海が１，９１０万円を負担するものと定めております。ＪＲ東海負担分につきましては、駅舎新設費用から現在の駅舎の価値を差し引いた額でございます。

次に「第１０条の財産所有権の帰属及び保守管理等」といたしまして、工事しゅん功後の財産の帰属及び保守管理区分は、豊川市が道路施設として、自由通路、トイレ、エレベータ等を持ち、ＪＲ東海が鉄道施設として、橋上駅舎、改札内のエレベータ等を持つと定めております。

工事協定書の主な内容のご説明は以上となります。

また、ご質問いただいております、「南北駅前広場の管理について」と「防犯及びスケートボード対策について」は、現時点では駅前広場の詳細設計を実施しておりませんので具体的な回答が難しい状況でございます。

今後、関係機関と協議を行いながら、駅前広場の設計を行い、まちづくり協議会と情報の共有化を図ってまいりたいと考えております。何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

私からの説明は以上でございますが、市長のマニフェスト事業でもございますので、しっかりと事業を進めて参りたいと考えております。

よろしくお願いいたします。

Ｑ２．御津１区（２期）の企業誘致及び関連事業などについて

（御津連区 代表連区長）

御津１区（２期）には地の利があり、名豊道路が全線開通することから、市長のトップセールスもあり、最近多くの企業が進出してきております。とても喜ばしいことです。

御津１区（２期）の分譲計画、企業誘致状況及び市長自らによるトップセールスの内容を質問します。

そして、臨海進出企業が熱望している臨港道路東三河臨海線の事業着手の見通しを質問したいと思います。

Ａ２．

産業環境部長（企業立地推進課）

「御津１区（２期）の企業誘致及び関連事業などについて」ご説明させていただきます。

はじめに、御津１区（２期）の分譲計画について、前方のスライドをご覧ください。この地区は、北側と南側にエリアを分けており、北側には１５．５ヘクタールの製造業用地（スライド、ピンク色のエリア）、南側には２５．３ヘクタールの流通・保管施設用地（スライド、黄色のエリア）が整備されています。全体の分譲面積は、合わ

せて40.8ヘクタールとなります。

平成21年度から北側の製造業用地の分譲を始め、令和4年度には南側の流通・保管施設用地の分譲も開始されました。

本事業の主体は愛知県企業庁で、現在の分譲価格は1平方メートルあたり約30,000円とされています。

御津地区は、豊橋や蒲郡、田原などの三河港の中央部という地理的優位性に加え、東名高速道路豊川インターチェンジや音羽蒲郡インターチェンジ、国道23号名豊道路の豊川為当インターチェンジに近接しており、交通アクセスが良好です。このため、製造や物流の拠点として立地条件に優れた地域とされています。

次に、企業誘致の状況についてご説明いたします。

分譲が開始された平成21年度当初は、リーマンショックによる世界的な景気後退や、東日本大震災による津波被害などの影響から、臨海部への企業立地が敬遠される傾向にありました。このため、一定期間は企業の進出が見られませんでした。

しかしながら、その後、社会経済の回復に伴い、市としても企業誘致を積極的に取り組み、新たな支援制度の創設や広報活動の強化などを通じて、誘致活動を進めています。

その成果として、平成28年度には初めて企業の進出が実現し、以後は定期的に企業の立地が続いています。近年では、令和5年度に物流業1社が、令和6年度には製造業1社、物流業1社の計2社が契約を結んでいます。また、今年度すでに製造業1社と物流業1社の計2社と契約を締結しており、加えて内定している企業が1社あるなど、着実に企業進出が進展しています。

令和7年6月現在、御津1区に進出している企業は、製造業が10社、物流業が4社の合計14社となっています。前方のスライドで、契約済又は交渉中として青色に表記しています分譲済面積は全体の約7割に達しており、企業進出が順調に推移していると考えております。

続いて、市長によるトップセールスの取り組みについて説明いたします。

令和6年度は、愛知県が主催する産業立地セミナーや、本市主催の企業立地情報交換会などの場を活用し、市長自らが御津1区を中心とした企業誘致のプレゼンテーションを行っています。また、御津1区への進出を具体的に検討している企業に対しては、個別訪問による直接的な働きかけを行うなどのトップセールスを展開しています。

直近で市長が訪問した4社のうち、3社が契約し、残る1社についても申し込みをいただき、現在内定済みとなっております。企業からは、「市長自らの熱意ある説明が意思決定の大きな後押しとなった」との評価をいただいております。

このように、トップセールスは単なる情報提供にとどまらず、市の真剣な姿勢や地域への信頼感を企業に直接伝える非常に有効な手段であると考えており、今後もトップセールスを積極的に活用し、企業誘致活動をより一層強化してまいります。

最後に、臨港道路「東三河臨海線」の整備に関する見通しについてご説明いたします。

この道路は、御津1区と2区を結び、さらに豊橋市の神野地区までを結ぶ計画とな

っており、整備されることで周辺道路の混雑緩和や渋滞の解消が期待されます。また、ふ頭間の物流効率が高まり、地域全体の産業活動の活性化にも大きく寄与するインフラと位置づけられています。

東三河臨海線は、愛知県が策定している三河港港湾計画に位置付けられており、現在、国において整備に向けた検討が進められているものの、現時点では事業着手の時期は未定となっています。

本市といたしましては、これまでも国や県に対し、早期の事業化を強く要望している状況ですが、今後も引き続き、さまざまな機会を捉えて働きかけを行い、少しでも早い事業化に向け、取り組んでまいります。

私の説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

Q 3. 名豊道路豊川為当 I C 地区に計画されている新たな工業団地の開発について

(御津連区 代表連区長)

昨年(2019)の3月3日(日)御津生涯学習センターにおいて、「新規工業団地の開発計画に関する説明会」が開催され、上佐脇地区の一部が計画区域に入っていることが明らかになりました。

説明会では、工業団地の開発について特に反対意見はありませんでしたが、たくさんの要望的意見が出ていました。

たとえば、児童の通学路及び高校生の自転車通学路の安全対策をして安全リスクを減らしたい。雨水処理計画の問いかけとか、工事車両の運行管理や舗装の痛み、通学児童への安全対策、為当地域のファームポンド運営問題などがあったようです。

最後は、自然災害が多く、水田が洪水調整池の役目をしており、水害対策として音羽川を改修して欲しいとの意見がありました。

新たな工業団地開発について、全体計画、説明会での地元住民からの意見と市の対応方針、洪水調整池の転落防止策及び維持管理について質問したいと思います。

A 3.

産業環境部長(企業立地推進課)

「名豊道路豊川為当IC地区に計画されている新たな工業団地の開発について」ご説明させていただきます。

はじめに、新規工業団地の開発計画の概要についてです。スライドをご覧ください。

昨年3月、御津生涯学習センターにおきまして、豊川為当インターチェンジ地区の新たな工業団地開発に関する地元説明会を開催いたしました。ご参加された方もいらっしゃるかと存じますが、本日はその際に説明した内容を中心に、改めて要点をまとめてお話しさせていただきます。

本市では、今後の持続的なまちづくりに向け、自主財源の確保や地域雇用の創出といった人口増施策の一環として、新たな工業団地の開発に積極的に取り組んでおります。

現在は、白鳥地区における工業団地整備を先行して進めているところですが、これに続く新たな地区として、工業団地開発候補地の検討を進めています。

また、臨海部の御津1区では現在も製造業や物流業向けの分譲が進んでいますが、企業からの立地の問い合わせの中で、内陸用地への関心が高いという現状がございます。

加えて、企業アンケートの結果からも、自然災害リスクの低さや幹線道路や高速道路へのアクセスの良さ、周辺に住宅地や学校などが少ない環境といった条件が、立地選定において重視されていることが分かっています。

こちらのスライドをご覧ください。市内の主な幹線道路網を示したものです。

豊川為当インターチェンジ地区は、緑色で示している国道23号名豊道路と、ピンク色の東三河環状線が交わる地点に位置しております。さらに、水色で示した東名高速道路の音羽蒲郡インターチェンジや豊川インターチェンジへのアクセスも良好であり、交通利便性の高い場所といえます。こうした立地条件が、候補地選定時における大きな条件のひとつとなっております。企業の立地ニーズとしては、住宅地や学校、病院などから適度に離れていることも評価される要素であり、今回の地区はそれらの点でも好条件を備えております。

次に、具体的な想定計画区域について説明いたします。

計画区域は、令和7年3月に開通いたしました国道23号名豊道路豊川為当インターチェンジに隣接した位置となっており、国道23号本線をまたいで東三河環状線の南側に位置します。区域は、図面上で赤い破線で囲んだ範囲、道路や水路など地形地物に囲まれた区域としております。

計画区域の規模は、東西に約600メートル、南北に約300メートルで、現在は田畑が広がる市街化調整区域であり、全体面積は約18ヘクタールの開発を想定しています。

続いて、今後の事業の進め方について説明いたします。

こちらの図は、工業団地開発の基本的な流れを上から下へ順に示したものです。はじめに、地権者の皆様及び地元住民の方々に対して説明を行います。次に、地権者の皆様から、開発事業そのものへのご同意をいただいたうえで、関係機関との協議を進め、概ね内容が整った段階で、具体的な売買金額を含んだ用地売買に関する同意をいただくこととなります。その後、正式に用地売買契約が締結され、事業主体による造成工事が開始され、完成後に企業への分譲が行われるという流れになります。

現在の状況としては、昨年3月に地権者の皆様及び地元住民の方々への説明会を開催し、地権者の皆様から開発事業に関する同意をいただいているところです。今後は、本市と愛知県企業庁が共同で事業化に向けた具体的な検討を始めてまいります。

次に、説明会でいただいた地元の皆様からのご意見について触れさせていただきます。当日は100名を超える皆様にご参加いただき、さまざまな貴重なご意見を頂戴しましたが、大きく分けて二つのご意見がございました。

一つ目は、周辺地域における交通安全対策についてです。特に、通学路に近接している点を踏まえ、工事関係車両の運行管理や進出した企業の通勤車両の通行など、安全面への配慮を求めめるご意見をいただいています。これに対しては、地域の方々への交通安全に十分配慮した対策を検討してまいりたいと考えております。

二つ目は、雨水排水対策に関するご意見です。近年の集中豪雨を踏まえ、区域内での

雨水排水方法や、下流域への影響を懸念するご意見がありました。これにつきましては、区域内に調整池を整備することで雨水を一時的に貯留し、雨水流出抑制を講じることで、下流域への負荷を軽減する考えです。

いずれにいたしましても、本計画は、これから詳細を検討していく段階であり、今後も事業の進捗にあたっては、地元の状況を考慮し、地域の生活環境や安全に配慮しながら進めてまいります。

引き続きのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

説明は以上となります。

Q 4. 都市計画道路について

(御津連区長)

都市計画道路について、名鉄国府駅から御津あおば高校に繋がる都市計画道路国府赤根線の整備が一部地主の理解が得られ、県議会議員の後押しもあって、トンネル工事が着手できるようになりました。

全体計画、トンネル工事概要及び豊川市民が利用する斎場会館「永遠の森」やタイレ株があるマルヤス工業(株)御津工場まで、延伸できるかを質問したいと思います。

そして、都市計画道路金野御油線は、御津金野インターチェンジから県営ふるさと公園の北側を通過、姫街道に繋がる計画路線ですが、今後の整備見通しを質問したいと思います。

また、名豊道路の全線開通を見通し、御津金野インターチェンジからラグーナテンボス及びフェスティバルマーケットに繋がる都市計画道路大塚金野線の計画が2023年に動き出しましたので、全体計画などを質問したいと思います。

A 4.

建設部長（道路建設課）

「都市計画道路について」回答させていただきます。

はじめに、都市計画道路国府赤根線につきましては、名鉄国府駅から御津町赤根の国道247号を結ぶ計画路線であり、名豊道路御津金野インターチェンジと国道1号とのアクセス道路としても重要な路線となり、愛知県に整備を進めていただいております。

ご質問の【全体計画】としては、名鉄国府駅から御津町赤根の国道247号を結ぶ総延長約4kmの都市計画道路で、今回の事業区間は西部中学校前の岡本橋から県道金野豊川線までの約1.2kmとなっており、片側1車線の両側歩道で計画されています。【トンネル工事概要】としては、トンネル部分約200mについて、現在、詳細設計など工事発注に向けた調整や準備を進めていると伺っております。

また、【斎場会館「永遠の森」やタイレ株があるマルヤス工業(株)御津工場までの延伸】につきましては、まずは国府町から県道金野豊川線までの事業化されている区間を進めていく予定とのことで、ご質問の区間延伸につきましては、現在のところ未定と伺っております。

都市計画道路金野御油線につきましては、御油町の国道1号の追分交差点から名豊道路御津金野インターチェンジを結ぶ重要な路線であり、御津金野インターへのアクセス道路部分は名豊道路の開通に合わせて今年3月に供用されました。こちらの路線も愛知県に整備を進めていただく予定です。

ご質問の【今後の整備見通し】としましては、まずは次にご説明します都市計画道路大塚金野線の整備を進める予定であり、現在のところ事業化の方は未定であると同っております。

都市計画道路大塚金野線につきましては、名豊道路御津金野インターチェンジと蒲郡市大塚町のラグーナ蒲郡地区を結ぶ路線であり、愛知県に整備を進めていただく予定となっております。

ご質問の【全体計画】としましては、延長約3.2km、そのうちトンネル区間は約620m、片側1車線の両側歩道となっており、トンネル区間については片側歩道となります。なお、豊川市側は延長約500mとなっております。

以上が、ご質問のありました御津地区周辺の都市計画道路についてのご回答となります。いずれも愛知県に整備を進めていただく事業ですが、様々な調整事項や用地買収、予算確保などの課題があり、明確な供用予定や事業着手の時期は示されていない状況です。

本市としましては、今後も愛知県に対して整備促進や新たな区間の事業化について要望を行っていくとともに、事業が円滑に進むように協力してまいります。

また、事業を進めていくためには地元の皆様のご理解とご協力が必要となってまいります。市といたしましても皆様のご意見をお聞きし、愛知県と調整を図ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

Q 5. 第2期豊川市公共施設適正配置計画について

(御津連区 代表連区長)

豊川市公共施設適正配置計画は、宝飯4町の中では、小坂井エリアが最初に取り組み、地方交流会館の老朽化に伴い新たに庁舎を中心とした交流館を再建築し、令和3年5月に開館しました。新たな交流館では季節に応じたイベントや支所だけでなく、図書館、生涯学習センター、児童館、相談所など様々な役割を担っており、地域の人から愛称を募集し「こざかい葵風館」と名付けられました。

引き続いて、一宮エリアで令和5年3月に「一宮地区公共施設再編整備基本計画」が策定され、再編事業が既に始まっています。

また本年6月に改訂された、「第2期豊川市公共施設適正配置計画」においても、第1期に続き、御津エリアの施設再編・整備については、(仮称)御津コミュニティネットワーク構想を推進することが示されています。

そこで、この構想の実現は、一宮エリアの複合施設と体育施設の整備完了後を予定しているかをお聞きしておきたいと思います。

併せて、今後、施設再編に伴い御津支所がどのように位置づけされていくのかも質問してみたいと思います。

A 5. ①

財産管理監（財産管理課）

私からは、「第2期豊川市公共施設適正配置計画のうち、（仮称）御津コミュニティネットワーク構想の実現予定について」ご説明をさせていただきます。

はじめに、ご質問へお答えする前に、まず、豊川市公共施設適正配置計画の内容について触れさせていただきます。

前方のスライドをご覧ください。

この計画は、老朽化施設の統廃合、機能や利用圏域の重複する施設の多機能化・複合化等を実施することを目的に、10年間を第1期の計画期間として2015年、平成27年6月に策定したものでございます。

第2期の計画に向けては、第1期の実績に対する評価を行い、引き続き公共施設マネジメントに取り組むものとして、方向性を定め、重点取組やリーディング事業などの見直しを行い、2025年、本年7年6月に、計画策定したものとなります。

次に、第2期計画での、御津エリアの位置づけになります。第2期においても、第1期に引き続き、重点度が高いモデルエリアで取組むリーディング事業の1つとして、表に示すとおり、施設の老朽化や複合化・多機能化などの視点をもって、エリア選定を行っております。

なお、この他のリーディング事業の取組状況ですが、小坂井エリアでは、令和3年5月に、支所機能、生涯学習・コミュニティ機能、図書館機能、児童館機能を集約した、「こごかい葵風館」の供用開始により施設再編プロジェクトを完了しており、一宮エリアでは、今年度新しい複合施設の建設工事に着手し、令和9年5月頃の供用開始、それに引き続き体育施設の建設工事に着手し、全面供用開始は令和11年4月頃の予定となっております。

また諏訪地区では、消防署本署整備事業の建設工事が進められているほか、本庁舎整備事業に向けては、昨年度末から基本設計、実施設計に着手している状況でございます。

次に、御津エリアの施設再編プロジェクトになります。

スライドをご覧ください。

御津エリア施設再編の基本的な考え方としましては、御津エリアの庁舎、文化・生涯学習、コミュニティ機能の集約手法を検証し、「（仮称）御津コミュニティネットワーク構想」を推進する必要があることをまとめております。

現在の主な取組み状況ですが、「基本的な考え方」の上から3つ目の丸にあります児童館について、①あかね児童館を地元集会所として無償貸与、②ひろいし児童館を児童クラブへ機能転用、③さわき児童館の廃止など、これら児童館3館の御津福祉保健センター内への集約化をすすめている段階でございます。

それではご質問にありました、御津庁舎などのコミュニティ拠点形成への取組として、(仮称)御津コミュニティネットワーク構想の実現時期ですが、現在の状況を申し上げますと、御津庁舎の一部では、国道23号バイパス、企業庁の用地造成等の事務所として、国及び愛知県への有償貸付けを行っており、当面、貸付が予定されていることや、JR愛知御津駅橋上化整備事業などの、市全体の整備事業の進捗も考慮する必要があるため、現時点では、事業着手は未定となっております。

しかしながら、(仮称)御津コミュニティネットワーク構想の実現は、豊川市公共施設等適正配置計画に掲げる重要度が高いモデルエリアの1つであるため、事業スケジュール等の検討を行い、具体的に進める段階になりましたら、小坂井地区・一宮地区と同様に、アンケートや調査をはじめ、御津地区の各種団体代表者への検討会の参加依頼などを行うとともに、市ホームページや地区回覧などを通じて適宜、情報提供等を図ってまいりますので、そのように、地元の皆様と一緒に進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

A 5. ②

市民部次長（御津支所）

続いて、私からは、「今後の施設再編に伴う御津支所の位置付けについて」ご説明させていただきます。

御津支所は、平成20年の合併時には、職員数も多く、道路維持のような専門的な業務を行う部署もございましたが、職員数は徐々に減少し、平成28年度からは組織機構改革で一宮、音羽、御津、小坂井の各支所は、市民部に属することとなりました。その際、各支所の業務は、市民にとって身近な手続きに関する窓口業務は継続し、影響の少ない専門的な業務は本庁に集約となっております。

先ほど財産管理監からの説明にもございましたが、令和3年度に供用開始した小坂井エリアの施設再編では支所機能は存続しており、令和9年5月共用開始予定の一宮エリア施設再編でも、支所機能は存続となっております。

そのため、今後の御津エリアの施設再編に際しましても、これらと同様に、市民の身近な手続きである、窓口業務「住民異動や印鑑登録証明、保険や医療、障害、介護、公金収納（税金等お支払い）など」、現状の御津支所の機能については、継続していく予定となっております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

「Q 4. 都市計画道路について」関連

(御津連区長)

都市計画道路国府赤根線の開通を待ちわびている住民の方の話を紹介。

御津連区 代表連区長 閉会あいさつ

本日は大変貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

今日いただいた情報は、各町内会を通じて町民に周知し、今後も市当局と連携して、元気な住みよいまちづくりを推進していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

市議会議員及び町内会関係者の皆さんは、夜遅くまでお付き合いいただきありがとうございました。

夜間ですので、交通事故に十分気をつけてお帰りください。

簡単ではありますが、私の閉会のごあいさつとさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。